

## 大隅諸島硫黄島沖から得られたフタイロハナスズキの記録

有馬雄太<sup>1</sup>・中村潤平<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学大学院農林水産学研究所 (鹿児島市)

<sup>2</sup> いおワールドかごしま水族館 (鹿児島市)

j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)

<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 14 April 2026

Revised 15 April 2026

Accepted 16 April 2026

Published 17 April 2026

DOI 10.34583/ichthy.66.0\_33

Yuta Arima, Jumpei Nakamura and Hiroyuki Motomura. 2026. Record of *Liopropoma dorsoluteum* (Perciformes: Epinephelidae) from Iwo-jima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 66: 33–36.

### Abstract

A single specimen (199.6 mm standard length) of Double-colored Yellow Bass *Liopropoma dorsoluteum* Kon, Yoshino and Sakurai, 1999 was collected from northeast of Iwo-jima island, Osumi Islands, Satsunan Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. This species has previously been recorded only from Japan (Izu Peninsula, Kagoshima Bay, Yaeyama Islands, and southern East China Sea), Taiwan, and Indonesia (Lombok). Therefore, the presently reported specimen of *L. dorsoluteum* represents the first record of the species from the Satsunan Islands, and the fourth record of the species from Japanese waters. The specimen is herein described in detail.

ハタ科ハナスズキ亜科 (Epinephelidae: Liopropominae) に分類されるハナスズキ属 *Liopropoma* Gill, 1861 は、世界で 33 種が知られており、日本からは 12 種が記録されている (Parenti and Randall, 2020; 中村・本村, 2022; Tang et al., 2025). 本属魚類は概ね小型種で、一部の浅海種を除き深場の岩礁・サンゴ礁域の洞穴や岩の裂け目に生息するため、標本が得られる機会は稀で、偶発的な釣獲やスキューバダイビングでの意図的な採集などの方法に限られる (Randall and Taylor, 1988; Pinheiro et al., 2019; 中村ほか, 2023).

2025 年 6 月 5 日、鹿児島大学水産学部附属練習船「南星丸」による立縄操業調査の過程で、大隅諸島硫黄島北東

沖から 1 個体のハナスズキ属魚類が得られ、フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* Kon, Yoshino and Sakurai, 1999 に同定された。本種は日本 (伊豆半島, 鹿児島湾, 八重山諸島, および東シナ海南部), 台湾, およびインドネシアからのみ知られている分布記録の少ない稀種である (Kon et al., 1999; 山田ほか, 1999; Akhilesh et al., 2012; Koeda, 2019; 中村・本村, 2020; Esmaeili et al., 2022; Tang et al., 2025). 本標本はフタイロハナスズキの薩南諸島における初めての記録であると同時に、本種の日本国内における 4 例目の記録となるため、ここに報告する。

### 材料と方法

標本の計数・計測は Kon et al. (1999) にしたがって、標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された標本 (KAUM-I. 217663) のカラー写真 (Fig. 1B, C) に基づく。本研究に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本研究において用いた研究機関略号は KAUM (鹿児島大学総合研究博物館), NSMT (国立科学博物館), および URM (沖縄美ら島財団) である。

***Liopropoma dorsoluteum* Kon, Yoshino and Sakurai, 1999  
フタイロハナスズキ**  
(Fig. 1; Table 1)

**標本** KAUM-I. 217663, 体長 199.6 mm, 鹿児島県大隅諸島硫黄島北東沖 (30°49'45–51"N, 130°19'34–33"E), 水深 105 m, 南星丸での立縄操業にて釣獲, 2025 年 6 月 5 日, 有馬雄太。

**記載** 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) は Table 1 に示した。頭部と体は前後方向に伸長し、やや側

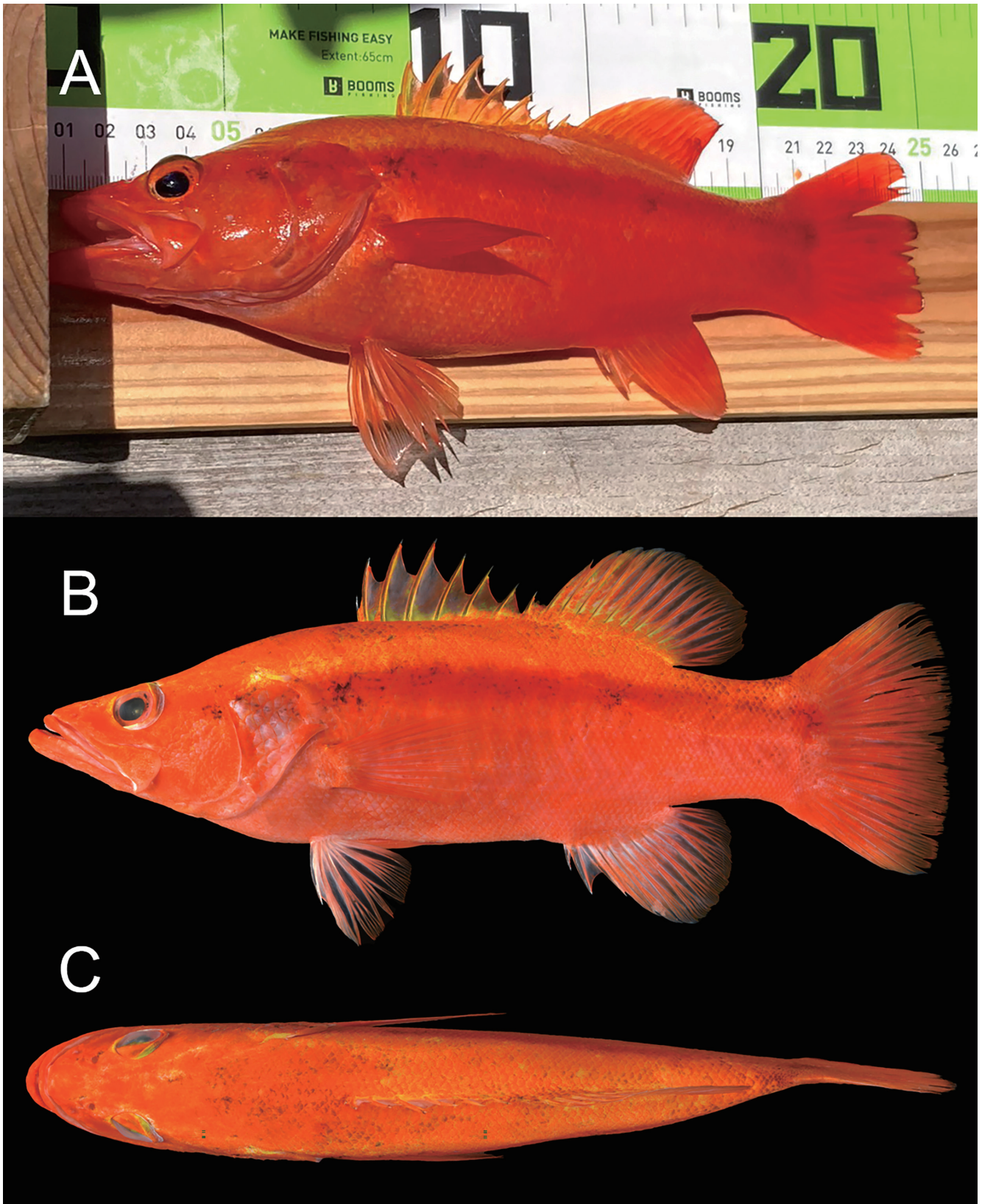


Fig. 1. Photographs of *Liopropoma dorsoluteum* (KAUM-I. 217663, 199.6 mm SL, northeast of Iwo-jima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan). A: immediately after fishing; B and C: lateral and dorsal views, respectively, of fresh specimen.

扁する。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて上昇し、背鰭起部から背鰭第1軟条基部までは体軸と概ね平行、そこから尾鰭基底上縁にかけて下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて下降し、腹鰭起部から臀鰭起部までは体軸と概ね平行、そこから尾鰭基底下縁にかけて上昇する。

眼は正円形を呈し、虹彩はやや前後方向に長い楕円形。鼻孔は2対で眼の前方に位置し、前鼻孔は吻端と後鼻孔の間に位置する。前鼻孔後縁に皮弁を有し、後鼻孔には皮弁を欠く。口は端位で口裂は大きい。上顎後端は眼の後縁直下に位置する。下顎先端は吻端より前方に位置する。主上

顎骨下縁に下方突起をもつ。両顎に絨毛状の1歯帯をもち、犬歯状歯を欠く。鰓耙は棒状で細長い。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、鰓蓋上部に3棘をもつ。体側は弱い櫛鱗に覆われるが、両顎、眼の周辺、鰓膜、および胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、鰓蓋後部上方から尾鰭基底部にかけて体背縁と概ね平行にはいる。背鰭は1基で、背鰭棘部と軟条部は連続する。背鰭起部は鰓蓋後端より後方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より僅かに後方にそれぞれ位置する。背鰭棘は第1棘が著しく短く、第2棘から第4棘まで徐々に長くなり、第4棘から第8棘にかけて徐々に短くなる。最長背鰭軟条(第6軟条)は最長背鰭棘(第4棘)より長い。胸鰭基底上端は鰓蓋後端より前方、胸鰭基底下端は腹鰭起部より後方にそれぞれ位置する。胸鰭は後縁が尖り、後端は背鰭第7棘基部直下を超える。腹鰭起部は背鰭起部より前方に位置する。腹鰭第5軟条は体と鰭膜で繋がらない。畳んだ腹鰭後端は背鰭第6棘基部直下を超えるが、肛門に達しない。臀鰭起部は背鰭第3軟条基部直下に位置し、臀鰭基底後端は背鰭第11軟条基部直下を超える。臀鰭第3棘は第2棘より長い。尾鰭は後縁中央部が僅かに湾入し、両端が円みを帯びる二分形。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1B, C) — 頭部と体側は、背

部が黄色がかった橙色、中央部が濃い赤色、下半部が橙色を呈する。尾鰭基部に眼径大の赤褐色斑を有する。背鰭は棘部と軟条部の前半が黄色で、軟条部後半が橙色。背鰭縁辺は淡い橙色に縁取られる。胸鰭は明るい橙色。腹鰭と臀鰭は淡い橙色。尾鰭は橙色で、後縁は黒い。瞳孔は黒色で、眼の周りは黄色がかかる。

**分布** 本種はこれまでに日本、台湾、およびインドネシア(ロンボク島)から記録されており(Kon et al., 1999; Shen and Wu, 2011; Akhilesh et al., 2012; Koeda, 2019; Esmacili et al., 2022; Tang et al., 2025)、国内では、伊豆半島東岸(静岡県富戸)、鹿児島湾、八重山諸島、および東シナ海南部からのみ記録されていた(Kon et al., 1999; 山田ほか, 1999; 中村・本村, 2020)。本研究により新たに鹿児島県の大隅諸島硫黄島沖における分布が確認された。

**備考** 硫黄島沖から得られた標本は、背鰭が8棘12軟条、臀鰭が3棘9軟条、体側鱗は弱い櫛鱗であること、側線が完全であること、両顎に絨毛状の1歯帯をもつこと、犬歯状歯を欠くこと、および主上顎骨下縁に下方突起をもつことなどの特徴によりRandall and Taylor (1988)が定義したハナスズギ属 *Liopropoma* に同定された。また、背鰭が1基で、棘部と軟条部の間に明瞭な切れ込みがあること、

Table 1. Counts and proportional measurements of *Liopropoma dorsoluteum*.

	This study	Kon et al. (1999)		Nakamura and Motomura (2020)	Tang et al. (2025)
	Osumi Islands KAUM-I. 217873	Holotype URM-P 29743	Paratype NSMT-P 55181	Kagoshima Bay KAUM-I. 132837	Taiwan n = 7
Standard length (SL; mm)	199.6	206.2	187.2	177.4	146.8–186.7
<b>Counts</b>					
Dorsal-fin spines	8	8	8	8	8
Dorsal-fin rays	12	12	12	12	12–13
Anal-fin spines	3	3	3	3	3
Anal-fin rays	9	9	9	9	8–9
Pectoral-fin rays	16	15	15	16	15–16
Pored lateral-line scales	52	52	53	52	48–49, 52
Scales above lateral line	7	6	7	7	6–9
Scales below lateral line	30	30	30	30	27–28, 30
Predorsal scale rows	27	27	25	26	—
Gill rakers	6 + 12	6 + 12	6 + 12	6 + 12	4–6 + 13–15
<b>Measurements (% SL)</b>					
Head length	41.1	39.5	38.4	40.9	37.7–38.9
Body depth	27.5	27.8	28.8	29.6	26.8–29.7
Body width	17.8	17.3	16.9	15.7	14.8–18.9
Pre-dorsal-fin length	41.9	43.1	42.6	45.9	42.8–44.1
Pre-anus length	64.3	68.0	65.6	64.3	70.8–75.0
Snout length	10.4	11.4	10.5	11.0	9.2–10.6
Eye diameter	8.1	7.2	7.2	8.0	8.0–8.7
Interorbital width	6.8	7.7	6.0	7.3	—
Postorbital length	20.1	21.0	21.8	23.1	—
Maxillary length	18.4	19.5	18.9	20.1	—
Caudal-peduncle length	19.9	20.8	18.3	20.0	15.1–17.9
Caudal-peduncle depth	15.5	18.0	17.5	16.4	14.6–16.5
Pectoral-fin length	23.9	23.4	23.9	25.6	23.2–25.7
Pelvic-fin length	15.5	15.9	17.8	19.2	16.4–18.9
Pelvic-fin spine length	9.4	8.9	8.8	10.3	8.5–10.5

尾鰭が僅かに湾入し、両端が円みを帯びること、前鼻孔が吻端と後鼻孔の中間に位置すること、側線有孔鱗数が52であること、生鮮時、体背部が黄色を呈すること、尾鰭基部に赤褐色斑があること、および尾鰭後縁が黒いことなどの標徴が Kon et al. (1999), 瀬能 (2013), 中村・本村 (2020), および Tang et al. (2025) の示した *Liopropoma dorsoluteum* と一致したため本種に同定された。

日本国内におけるフタイロハナスズキの分布記録は「分布」の項に示した通りであり、本研究で記載した個体は本種の日本国内からの4例目の記録となる。鹿児島県において、本種は中村・本村 (2020) によって鹿児島湾内の桜島周辺の水深40mの岩礁域から報告されているものの、島嶼域からの採集例は知られていなかった。そのため、硫黄島産の標本は本種の薩南諸島における初めての記録となる。記載個体は硫黄島北東沖における立縄操業調査の過程で釣獲されたものであり、急峻で起伏の激しい岩礁帯の水深105mから得られた。ハナスズキ属魚類の多くは漁獲や観察の困難な環境に生息しており (中村ほか, 2023), 本種も極めて採集がされにくい場所に生息していると推測されることから、本種の分布記録は世界的にも少ないものの、実際にはより広域に分布している可能性が高い。

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学水産学部附属練習船「南星丸」の乗組員のみなさまと鹿児島大学水産学部の松岡 翠氏には標本の採集にご協力いただいた。鹿児島大学水産学部の三橋廷央博士には操業資料の提供および標本の採集にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。匿名の査読者と Ichthy 担当編集委員の松本達也氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科 研 費 (20H03311・21H03651・22K02161・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部

科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

## 引用文献

- Akhilesh, K. V., K. K. Bineesh and W. T. White. 2012. *Liopropoma randalli*, a new serranid (Teleostei: Perciformes) fish from the Indian Ocean. *Zootaxa*, 3439: 43–50.
- Esmacili, H. R., S. Echreshavi, A. H. Masoumi and R. Fricke. 2022. New record of Randall's basslet *Liopropoma randalli* from the northwestern Indian Ocean, with an annotated checklist of the species in the family Liopropomatidae (Teleostei: Perciformes). *Iranian Journal of Ichthyology*, 9: 213–232.
- Koeda, K. 2019. *Liopropoma dorsoluteum* Kon, Yoshino & Sakurai, 1999, p. 634. In Koeda, K. and H.-C. Ho. (eds.) *Fishes of southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.
- Kon, T., T. Yoshino and Y. Sakurai. 1999. *Liopropoma dorsoluteum* sp. nov., a new serranid fish from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 46: 67–71.
- 本村浩之 (編). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 中村潤平・是枝伶旺・前川隆則・本村浩之. 2023. 甌島列島と奄美大島から得られた鹿児島県初記録のハタ科魚類ハナスズキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 38: 4–7.
- 中村潤平・本村浩之. 2020. 鹿児島湾から得られたハタ科魚類の稀種フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* の記録. 鹿児島大学水産学部紀要, 68: 19–23.
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43.
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2020. An annotated checklist of the fishes of the family Serranidae of the world with description of two new related families of fishes. *FishTaxa*, 15: 1–170.
- Pinheiro, H. T., B. Shepherd, B. D. Greene and L. A. Rocha. 2019. *Liopropoma incandescens* sp. nov. (Epinephelidae, Liopropominae), a new species of basslet from mesophotic coral ecosystems of Pohnpei, Micronesia. *ZooKeys*, 863: 97–106.
- Randall, J. E. and L. Taylor. 1988. Review of the Indo Pacific fishes of the serranid genus *Liopropoma*, with descriptions of seven new species. *Indo-Pacific Fishes*, 16: 1–47, pls. 1–4.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Shen, S.-C. and K.-Y. Wu. 2011. *Fishes of Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Checheng. 896 pp.
- Tang, C.-N., N.-W. Lai and H.-C. Ho. 2025. Description of a new liopropomine basslet, *Liopropoma terecaudum*, from northern Taiwan (Perciformes: Epinephelidae). *Journal of Fish Biology*. 107: 902–917.
- 山田梅芳・堀川博史・山下秀幸. 1999. フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* Kon, T., T. Yoshino and Y. Sakurai. 西海区水産研究所ニュース, 97: 1.